

「花宵道中」 ★★★

2014 (平成26) 年11月10日鑑賞

<テアトル梅田>

監督：豊島圭介

原作：宮木あや子『花宵道中』（新潮文庫刊『花宵道中』所収）

朝霧（あさぎり）（人気女郎）／安達祐実

半次郎（朝霧の恋人）／淵上泰史

八津（やつ）（朝霧の妹女郎）／小篠恵奈

江利耶（えりや）（八津と仲の良い女郎）／三津谷葉子

絢音（あやね）（仲間の女郎）／多岐川華子

若耶麻（わかやま）（江利耶の妹女郎）／立花彩野

大島屋卯之吉／松田賢二

霧里（きりさと）（半次郎の姉）／高岡早紀

お勝／友近

吉田屋（芳之助）／津田寛治

2014年・日本映画・102分

配給／東京テアトル

◆本作は宮木あや子の『花宵道中』を原作とし、「同情するなら金をくれ！」で一世を風靡した芸達者な女優・安達祐実を主役に据えた話題作。安達の映画主演は20年ぶりだし、芸能生活30周年の節目に大胆に肌を見せることもいとわず、自ら本作への出演を希望したこともあって、事前の宣伝は十分だ。吉原を舞台とし、遊女を主人公にした映画には『吉原炎上』（87年）や『さくらん』（07年）

（『シネマルーム18』203頁）等、たくさんある。とりわけ『吉原炎上』は遊女の悲しさをモチーフとしながら、名取裕子、二宮さよ子、藤真利子、西川峰子、かたせ梨乃という5人の女優が絡む骨太の名作ドラマだった。

しかし、私の目には最近の〇〇賞、△△賞の原作は薄っぺらなものが多い。「女による女のためのR-18文学賞」を受賞した蛭田亜紗子の『自縄自縛の私』を竹中直人が初監督した『自縄自縛の私』（12年）も薄っぺらだった（『シネマルーム30』未掲載）。しかして、本作もたしかに安達の熱演は光っているが、ストーリー構成はありきたりで見え透いたものばかり。これではちょっと……。

◆吉原には花魁（おいらん）、間夫（まぶ）、花魁道中、等々の専門用語がある。また、「～でまし」等、吉原の遊女特有の言い回しもある。安達祐実は33歳ながら演技歴30年のベテラン女優として、それらの言い回しをしっかりとこなしている。さらに、ある時は理不尽な客を相手に見事なタンカを切ったり、ラストでは恋人の半次郎（淵上泰史）相手に「もっと……もっと……」とせがむ情熱的な愛のシーンを見せたり、セリフ回しはさすが。

また、表情でも、妹女郎の八津（小篠恵奈）に対して「男を信用してはダメ」「いくら客を取っても、気をいかせたことは一度もない」等の冷めた目と、先輩遊女としての人生観を明確に示す表情が際立っている。そのため、半次郎との会話で見せる幼女のような素朴で明るい笑顔や、逆にクライマックスに向けて起きるある事件の中で見せる哀しみ、そしてその中でもわずかに見せる希望を実にうまく表現している。

しかし、それだけで2時間弱の一本の映画を持たせるのは到底ムリ。「心から愛する人に初めて触れられ、愛された喜びは、いつの時代だって変わらないもの」、「逃れられない運命のうねりの中で、一生に一度の恋が咲き乱れる」というキャッチフレーズはよくわかるが、どうして最近の邦画ってこんなに単純でわかりやすいの……？

◆今年は10月から11月にかけて、『シネマルーム33』の出版と事務所だよりの製作の他、『坂和的中国電影大観3』（『シネマルーム34』）を出版したため、作業が多くなった。しかし、年中行事となっている『シネマルーム』の出版作業は、既にできている1本1本のネタを全体的にどう目次をつけ、どう配置していくかという作業だから、私には簡単。さらに、事務所だよりの製作もネタ探しメインで、テーマさえ決まれば一定のボリュームでそれなりの文章を書くのは簡単だ。

それを映画製作に転じて考えてみると、11月2日に観た「早熟の天才」と呼ばれるカナダのグザヴィエ・ドラン監督の『トム・アット・ザ・ファーム』（13年）は難解で、私はその良さがわからなかった。他方、2時間27分のインド映画『チェイス！』（13年）は、アクションあり、父子愛、兄弟愛ありの長尺ドラマの中でみせる、しっかりしたストーリーの面白さが何よりの魅力だった。また、アジア映画のミューズ・杉野希妃の新たなステージを示す、『欲動（TAKSU）』（14年）、『禁忌（sala）』（14年）は、杉野やそこに結集するスタッフ、俳優たちの問題意識が明確に打ち出されているすばらしい邦画だった。

しかし、本作をみていると、この程度の映画なら少し勉強すれば私でも作れるのではないかと一瞬そう錯覚するほどスローテンポでわかりやすく単調なストーリーが続いていく。お茶の間で観る(?) テレビドラマは誰にでもわかりやすく、気軽に楽しめるものでいいのだろうが、映画はちょっと違うはずだ。安達祐実の「濡れ場」を目当てに来たのだからそれだけで満足すればいいのだが、欲の深い私はどうしてもそう考えてしまい、本作には不満タラタラ……。